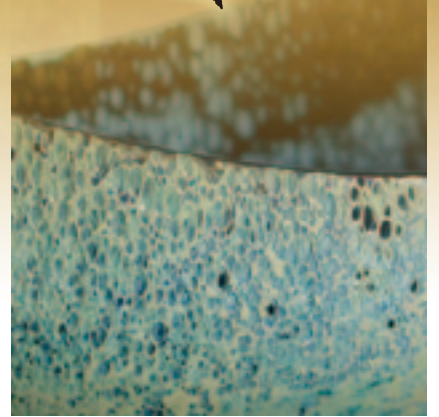
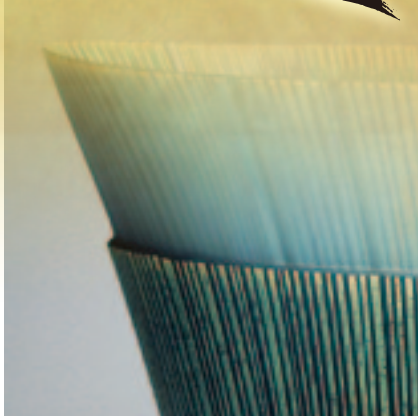
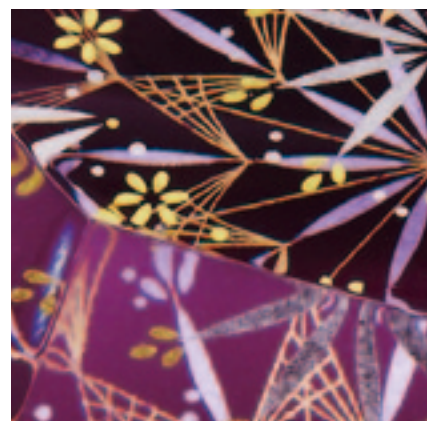
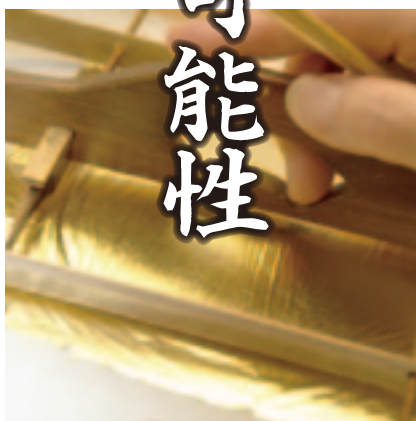
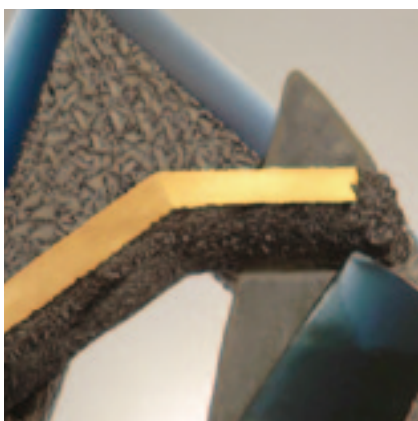


きんぱく



今号のテーマ

金沢箔とガラスの可能性



人々を魅了し続ける
光り輝くものたち

世界で初めてのガラスは紀元前数千年、砂浜でたき火をしていた一人の船乗りが風をさえぎるためにたまたま使った岩塩が、熔けて砂と反応してできたものだと伝えられている。今回の特集は、数千年も前から人々を魅了し続けている金・金箔とガラスのアートの世界をめぐる。

金箔とガラスの可能性

金箔 × ガラス その歴史

5000年以上も昔から箔とガラスはともにあった

人と金・金箔には古いつながりがあるが、人とガラス、金・金箔とガラスもまたともに長い歴史を刻んでいる。

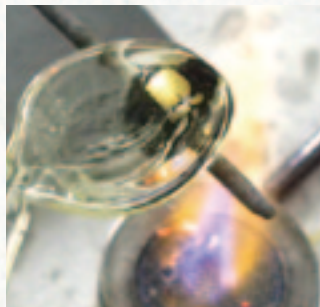
紀元前 3000 年から 2000 年頃にはエジプトやエーゲ海地域などで珠や塊、ガラス棒などの小さな装飾品が作られるようになったことが分かっており、それ以前にも釉薬としてガラスが用いられていたとも伝えられている。

いずれもキラキラと輝く素材であった上、技術的にも比較的加工がしやすかった金とガラスが時の権力者を中心に、富裕層でもはやされたことは想像に難くない。加工技術の向上にともなって、庶民の間にも広まっていったものもあるだろう。

金箔とガラスを組み合わせることは現在では少なくないが、これも紀元前 300 年頃には確立されていたという。

「ゴールドサンドイッチ」と呼ばれるこの技術は、名前の示

す通り金箔をガラスで挟み込むもので、エジプトのアレクサンドリアやギリシャのロドス島の遺跡などからも出土されており、4 世紀頃にはローマ帝国で金箔入りのガラスメダリオンやガラスベースなどが次々に制作されていたようだ。



日本では奈良県の藤ノ木古墳から金層ガラス玉が、滋賀県や島根県古墳から銀層ガラス玉が発見されている。周辺から製造跡が見つかっていないことから、地中海や西アジアからシルクロードを渡って日本に伝わった可能性が指摘されている。

金箔 × ガラス その発達

日本でのガラス加工技術は大正時代に飛躍した

古代には装飾や祭祀に使われたガラスの主成分は珪砂という石英片岩。これに炭酸ナトリウムや炭酸カルシウムを加えて溶解することでガラスが生まれる。混合するのは珪砂の溶解温度を下げて加工を容易にすることが主な目的だが、ここに別の物質も加えればカラーガラスや透明度の高いガラスができる。

こうした加工技術が向上すると、ガラスは次第に人々の生

活の中に広がっていき、アートとしても人気を集めるようになる。ガラスアートと聞いてエミール・ガレやルネ・ラリックなどアールヌーボー時代のデザイナーを思い起こす方も多いだろう。アールヌーボーとは日本語で「新しい芸術」。ガラスの存在が一気に芸術として昇華した。

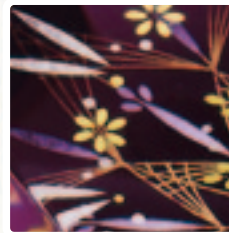
日本では明治後期から大正時代にかけてガラスの加工技術が飛躍した。国内で板ガラスの製造が可能になったのもこの頃。ちなみに金沢で箔打ち機が開発されたのもこの時期だ。

一方で、加工技術の向上とともに装飾やアートの分野だけでなく窓ガラスや鏡、食器など日常生活でも使われるようになる。現代に入ってから、高精度に加工できて変形しづらく熱にも強い特性を生かして光学機器、磁気ディスク、ナノテクノロジーなどの産業分野でも広く利用されている上、比較的再利用がしやすいためリサイクル、エコロジー素材としても注目されている。

金箔 × ガラス その未来

ガラスと箔の新たな可能性を開く現代ガラスアーティストたち

現代でも多くのガラス作家が作品に金箔や金属箔を取り入れている。



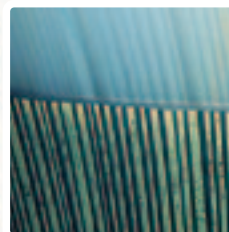
その一人、山本茜さんはきりかね截金という手法をより美しく見せる手段としてガラスを取り入れたという。截金とは金箔や金属箔を数枚焼き合わせて細く切ったものを貼り合わせて文様を表現する奈良時代から伝わる伝統技術。仏像や木工芸品、掛け軸などで使われる技術だが

「ガラスを取り入れることで截金の立体構成が可能になった。色ガラスを使って無限の色を表現できるようになり作品の幅、自己投影にも深みが出た」と話す。山本さんの作品は万華鏡のように複雑で幻想的な雰囲気が特徴だ。



山本茜 作
無我(あざみ)
撮影: 消忠之

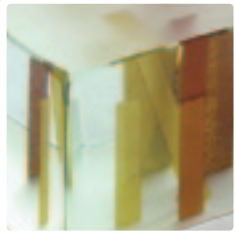
塚田美登里さんは金属工芸の勉強をしつつ、他の素材の可能性を模索していくなかでガラスとの出会いがあり、のめり込んでいったのがガラス作家となるきっかけだったという。一見、焼き物にも金属にも見える表情豊か



な作品を生み出しており「ガラスと金属を合わせることによる表情の多様性に深く惹きつけられた。不均等性、偶然性をあえて持たせることで冷たく感じがちなガラスがあたたかく感じられる」と魅力について語った。



塚田美登里 作
Natural Lace



市川篤さんがガラス作家を志したきっかけは、ヨーロッパ留学した際に、ガラスという素材が日本よりも身近にあると感じたことだという。「留学していた時に、ガラスのもつ豊かな可能性に触れたことは衝撃的だった。

特にガラスはケミカルな素材であることから、例えば金属箔と熱により合わせることで化学変化が起き、様々な表情を見せてくれる。知れば知るほど、ガラスへの興味は尽きることがない」とその魅力について語る。市川さんの作品には、アクセントとして箔が使われることが多く、作品を表情豊かに彩っている。



市川篤 作
Canyon

三氏をはじめ多くの現代ガラスアーティストの活躍によって、自身の作品だけでなくガラスアートと金属箔の可能性も大きく開かれている。

活動紹介

山本 茜

「源氏物語展～雅のDNA～」高知県立文学館
2016年10月1日(土)～2017年1月9日(月)
「菊池寛実賞 工芸の現在展」菊池寛実記念智美術館
2016年12月17日(土)～2017年3月20日(月)

塚田 美登里

「私の寛ぎ時間箱～お茶時間～」銀座三越
2016年10月12日(水)～11月1日(火)
「現代ガラスの表現展Vol.3」大一美術館
2016年12月6日(火)～2017年4月16日(日)

市川 篤

「金沢の現代工芸最前線」金沢市立安江金箔工芸館
2016年10月7日(金)～11月27日(日)
「2017金沢・世界工芸コンペティション」金沢21世紀美術館
2017年1月21日(土)～2月11日(土)

金箔先生の知っ得セミナー

“箔打革”を 知っていますか？

金箔必須のアイテム、それは打ち紙です。金塊を直接打ち延べても、0.1ミクロン(10000分の1mm)という薄さにすることはできません。必ず何かの間に挟んで打ち延べる必要があります。その何かとは、日本の伝統的な箔打ちでは手漉の雁皮紙です。しかし紙が調達できない所では、紙以外のものを用いることになります。

インドでは伝統的に羊の皮を使います。毛をむしり取った羊の皮に塩をふって寝かせてから、穀物の粉から作ったペーストと植物の樹液を混ぜた液体に一週間ほど漬けます。そして、膨潤した皮を表皮の方を下にして、赤砂岩の厚い板の上に置き、スクレーパーで肉質部分を削ぎ落とします。石板の上には、半透明で乳濁色、触ると滑らかで弾力のある薄膜が残ります。

この薄膜を陰干すると、乳濁色は消えて弾力性も低減し、触るとカシヤカシヤと乾いた音がします。これが箔打革の素材となるジッリです。



羊の表皮から肉質部をそぎ落とす

ジッリはムガル帝国の古都アグラの独占的生産品であり、アグラからインド各地の製箔業者に送られます。インド西部の町ジャイプールの箔打師は、ジッリを特別の液体ルアーブの水に浸し、板に貼り付けて乾燥させてからハサミで規定の大きさに裁断します。こうして箔打革オザールが出来上がります。オザールは金箔にも銀箔にも使います。打ち革の調製に用いるルアーブの水は鼻にツンとくる暗赤色の液体で、シナモンやクローヴ、カルダモンやサフラン



裁断前の箔打革オザール

ンなどのスパイスが入っているようですが、詳細は秘密です。オザールの調製は、箔打師の中でも特に経験を積んだ古老の仕事です。

ジャイプールの箔打は、オザールの間に金片を挟んだものを1組とし、これを160組束ねて、胡座の姿勢で手打ちします。4000人とされる箔打師のほとんどが銀箔を打ち、金箔を打つのはほんのわずかです。また、ジャイプールの箔打師は全てムスリム(イスラム教徒)です。彼らは血抜きをしていないものを扱うことはできないので、ヒンズー教徒であるアグラの皮革業者からジッリを取り寄せているのです。

(所長 川上明孝)

*写真は、『世界の金箔総合調査』(金沢美術工芸大学美術工芸研究所2000年)より転載

金箔 上級① 検定

金箔を知らずして金沢は語れません。身近にありながらも意外と知られていない金箔のあんなことこんなこと。問題に答えて、プレゼントをゲット!

問1 えんづけ
縁付金箔が出来上がるまでには、
()の職人が関わっている。

1. 1種類 2. 3種類
3. 5種類 4. 7種類

問2 江戸時代に幕府と折衝して、金沢
城の修復等に限り金箔製造の許
可を得たのは()である。

1. 猿飛 佐助 2. 前田 綱記
3. 越野 佐助 4. 前田 健太

問3 うわすみ
上澄とは、金合金を()の
厚さまで打ち延ばしたものである。

1. 10分の1ミリ 2. 100分の1ミリ
3. 1000分の1ミリ 4. 10000分の1ミリ

問4 金箔は、金の含有量が()
以上からが金箔と定められている。

1. 58.82% 2. 50.03%
3. 45.26% 4. 35.62%

問5 金箔は着色料・食品添加物として、
()から正式に認可されて
いる。

1. 消費者庁 2. 文部科学省
3. 農林水産省 4. 厚生労働省

問6 縁付金箔の箔打紙作り(紙仕込
み)は、水、わら灰汁()、
柿渋の混合液に浸す。

1. 塩 2. 卵白
3. 蜂蜜 4. 大野醤油

第五回 金箔《上級①》検定の解答は弊所ホームページにて2017年4月初旬に掲載いたします。

郵便はがき

9 2 0 0 8 3 1

切手を
お貼りください。

石川県金沢市東山1-3-10
金沢市立安江金箔工芸館3F

金沢箔技術振興研究所
金箔検定 (vol.15) 係行

素敵な 金沢市立安江金箔工芸館 金箔商品・入館招待券をプレゼント

上記の金箔検定の解答と下記のアンケートを、左記のハガキにご記入の上、ご応募ください。正解率の高い方から10名様に素敵な金箔商品を(同点の場合は抽選)、他の方には金沢市立安江金箔工芸館入館招待券2枚をもちまわります。

応募締切：2017年3月末日(消印有効)
※当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

§ アンケート §

アンケートにご協力をお願いします。お寄せ頂きました結果をもとに紙面作成を行って参ります。ご回答は左記のハガキにご記入の上、郵送または下記番号へFAXしてください。

- Q1** ご年齢は?
1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代以上
- Q2** きんぱーくをどこで手に入れましたか?
1. 図書館 2. 文化施設 3. 市や町の出先機関 4. その他
- Q3** 今号のテーマ「金箔箔とガラスの可能性」はいかがでしたか?
1. 良かった 2. まあまあ良かった 3. 普通 4. つまらない
- Q4** 金箔に関する事で取り上げて欲しいことがありましたらお書きください。

FAX送信先：076-225-8942 金沢箔技術振興研究所

FAX番号はお間違えないようお送りください。

金箔《上級①》検定解答欄

解答欄	問1	問2	問3	問4	問5	問6

アンケート 回答欄	Q1	Q2	Q3
Q4			

商品発送先 住所 〒
.....
お名前
.....
お電話
.....

※プライバシー情報は、商品の発送のみに使用します。

金沢箔技術振興研究所

News Letter きんぱーく

News Letter きんぱーく Vol.15

発行日/2016年10月1日

発行/金沢箔技術振興研究所

〒920-0831 石川県金沢市東山1-3-10

金沢市立安江金箔工芸館3F

tel. 076-225-8941 fax. 076-225-8942

e-mail kanazawa-haku@wind.ocn.ne.jp

金沢箔技研

検索

ホームページ
http://www.
kanazawahaku-giken.jp

